

給食週間の はぐくむ その2

1月28日月曜日。週が明け、お休みしていた1年生も元気な顔を見せてくれましたあ！

5時間目。2年教室に、先週の坂本先生の授業を受けられなかった1年生も一緒に加わって『給食について考えよう』の授業が始まりました。

ごあいさつのあと、今日の給食がおいしかった話から、「どんなメニューが好きなの？」に「メロン」「肉」「鮭」「和食系！」「ホットケーキ作れます」と、一気に盛り上がりました。

そして、いつもニッコニコの坂本先生の顔が少し変わりました。



先生「なんのために食べるの？」

子「食べないと病気になる」「元気のため」

「白血球が負ける」(←ありがとう！保健のお話を覚えてくれていたんだね！！)

「インフルエンザにならない」

「栄養不良にならない」「食べないと死ぬ」

先生「みなさんのまわりには、食べ物はいっぱいある？」

子「給食がある」「家に帰ったらいっぱいある」

「昨日は牛丼でした！」「朝ごはん食べる」「夜

ごはん食べる」「スーパーで買い物する」

「ファミマのサラダチキンがすき！」

「じいちゃんとおばあちゃんが大豆やらはくさいやら作る」「うちはきゅうり作る」



戦争中、食べ物を作ることができない、作る人がいないなどで食べ物がなくて、病気などで亡くなってしまふ人（兵隊さんや子どもたち）がいたことを話してくれました。

子「中原も？」

先生「それはどうかな？おうちの方にお話をきいてみてごらん？」

おじいちゃん、おばあちゃん、ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃん、子ども、孫に戦争の時のこと、どんなものを食べていたか、お話をしてあげてください！

私たちは、歴史を知ること、はじめて「現代」（今）の意味がわかります。今、豊かな食生活ができていることも、歴史の物差しをつかうと余計にわかることがあると思うんです！！



今日の授業はお話を中心です。ちえこ先生がホワイトボードに先生のお話を書く→実物投影機→電子黒板にうつり、全員にお話が見えました。

先生「今、日本は戦争はしていない。でも食べ物ものがなくなったことがあるんです。」



三年前の地震の時、道路がこわれて食べ物にとどかず、お店に商品がないこと、学校や公民

館などの避難所で、配れるのは一日おにぎり1個、パン1個ということもありました。並んでお水ももらっていたことなどを先生が話すと、子 「おなかへりそう・・・」

『戦争』『地震』だけでなく、世界の『干ばつ』『洪水』のお話をしてくれましたが、子どもから「ユニセフ」というワードが出てきました。

コマーシャルやテレビ、担任の先生や保護者・地域の方の読み聞かせしてくれた本などで知っているようでした。

頭のテレビにうつっている映像を、口々につぶやいてくれました。

先生「給食センターも、水が出ない、食材が届かなくて、作れなかったんです。

戦争はあっていなくても、今の私たちも、食べ物がないということもあるんです。



坂本先生は、1、2年生にいろいろな数字のカードを見せました。

『戦争や災害で、命がなくなっている子どもの数』『食べものがなくて、苦しんでいる人の数』など。

生まれてすぐお母さんが栄養不足で死んでしまう赤ちゃん、5歳まで生きられない子どもがたくさんいる地域がある、食べ物がなくて生きられない人がいることを話しました。

先生「なんのために食べるの」

子 「生きるため！」

『あたりまえ』のようにある食べ物だけど、いろいろな人のおかげで食べることができてい

ることに気づきました。

先生「そうだね、食べ物が大切だね。でもね、。」



坂本先生はまた、いろいろな数字のカードを見せました。『1秒間におにぎり8600こ分(688kg)が捨てられていること』『食品ロス621万トンの、まだ食べられるはずのものが捨てられていること』そしてその捨てられている食べ物の写真。すると・・・↓



子 「もったいない！」

先生「そう、それに気づいてほしかったんです。」

子 「買いすぎるといかん。」

「食べられなくてきつい思いの人のこと考えないといかん。」

「ちょっとくらい賞味期限切れていても、ごくごく飲むよ・・・」

(ふふふつ、子どもたちから、自然に自分がしていることが、こぼれでてきます。)



今、おなかいっぱい食べられるのはあたりまえではないことをもう一度確認し、最後に自分にできることと感想を発表しました。

坂本先生、ありがとうございました！